



VOL. 19 No. 3 University of the Ryukyus Library Bulletin. 1986.6.20

学術雑誌検索の手引

鶴岡 知昭

(琉球大学情報処理センター)

まえがき

「情報化社会」といわれる昨今、大学図書館には学内外の学術情報センターとしての機能が強く要求されています。しかし現実問題として情報が満ちあふれ、我々はその洪水の中で溺れないように慌てふためいているというのが現状のようです。

この度、情報処理センターの全面的な協力により、情報検索システム F A I R S : FACOM ADVANCED INFORMATION RETRIEVAL SYSTEM によって附属図書館の雑誌の所蔵情報が学内の各 T S S 端末で検索できるようになりました。図書館に出向いたり、電話で問い合わせたりしなくても、端末さえあれば自分の研究室でわかるようになったということです。 加えて F A I R S という情報検索システムにのったことにより、様々な角度からの検索ができるようになりました。こちらへの応用効果も近い将来に大きなものとなるでしょう。附属図書館報「びふりお」特別号のこの小冊子が、そのよきマニュアルとなることを希望してやみません。

これからの課題としては、単に雑誌の所蔵情報だけではなく図書の所蔵情報などへのサービス拡大も考えられていますし、またデータ内容の質的向上も図らなければなりません。今後とも附属図書館の業務に御理解をいただき、よろしく御指導御協力下さい。

最後になりましたが、今回の企画に献身的にご尽力下さった情報処理センターの鶴岡先生に深く感謝を申し上げます。

昭和61年6月21日

琉球大学附属図書館長

國府田佳弘

目 次

第1部 概 要	1
第1章 附属図書館と電算化の歴史	2
1.1 閲覧管理システムの概要	3
1.2 I L I Sと図書館業務	3
1.3 学術情報センター（中枢センター）と大学図書館	4
1.4 雑誌データベース凡例	5
第2章 情報処理センターの利用	6
2.1 情報処理センターとその役割	6
2.2 利用申請	6
2.3 N I - N E Tによる他大学の利用	7
第2部 情報検索	8
第1章 情報検索サービスと利用方法	9
1.1 情報検索システムとF A I R S	9
第2章 情報検索の実際	11
2.1 計算機との接続（ログオン）および切断（ログオフ）	11
2.1.1 端末機とセンターとの接続	11

2.1.2 LOGONコマンドの入力	12
2.2 フルスクリーンモードとカナ（ローマ字）漢字変換	12
2.2.1 入力規約	13
2.2.2 変換規則	14
2.3 情報検索サービスの開始と終了	15
2.4 利用可能なデータベースの確認	16
2.5 データベースの選択と項目の表示	17
2.6 SEARCHコマンドの使い方（条件検索）	23
2.7 BROWSEを利用した検索	30
2.8 検索結果の表示	33
第3章 検索用コマンド詳説	34
3.1 ANDコマンド	35
3.2 BROWSEコマンド	36
3.3 CANCELコマンド	37
3.4 ENDコマンド	38
3.5 EXPLAINコマンド	38
3.6 FSコマンド	38
3.7 HELPコマンド	39
3.8 HISTORYコマンド	39
3.9 INDEXコマンド	39
3.10 NOTコマンド	41
3.11 OPTIONSコマンド	42
3.12 ORコマンド	43
3.13 OUTPUTコマンド	44
3.14 PFKコマンド	46
3.15 QENDコマンド	46
3.16 SAVEコマンド	47
3.17 SEARCHコマンド	47
3.18 SELECTコマンド	49
3.19 SHOWコマンド	49
3.20 SORTコマンド	51
3.21 SYNONYMコマンド	51

第4章 付録・和雑誌データベースの定義	53
---------------------	----

(表)

3	東京大学図書館の中国語資料
7	岡山県立大学図書館の中国語資料
11	岡山県立大学図書館の中国語資料

《表》

ILISで計画中の図書館業務	3
N1-NETによる筑波大学の利用例	7
情報処理センターの公衆網電話番号	11

第 1 部 概 要

コンピュータによる情報検索の楽しさは、それを実際にやったことのある人でないと、とても理解できないでしょう。コンピュータによる情報検索をやってみますと、面白いほどに次から次へといろんな情報が出て来ます。一方、コンピュータによる情報検索の手段がなかったとしたらどうなるでしょうか。研究者はときに100万件を越える文献の中から自分の研究に関係する文献を探し出す必要に迫られることがあります。勿論、これほど大量のオリジナル（一次情報）が身近にあるとは思えません。たとえあったとしても、どうやって目指す文献を探し出すのでしょうか。眺めているだけで、あっという間に1年、2年が過ぎ去ってしまいそうです。

琉球大学の附属図書館には数万件にのぼる沖縄関係の資料が蓄積されています。この資料は現在単行本になっています。でも、なれた人ならともかく、普通の人がどうやってこの中から自分の興味のある資料に辿りつけるのでしょうか。これがもしコンピュータを使って自由自在に検索できたとしたら、沖縄関係の研究者以外の人達にとっても、どんなにかすばらしい知識を与え、好奇心を満たしてくれるに違いありません。

どんな資料も、紙に記されただけなら、今や宝の持ち腐れ同然。一度情報検索の対象となれば、その資料は世界中の財産となるでしょう。そして今日では、大学間はコンピュータネットワークで相互に結合されており、研究室や自宅から居ながらにして、多くの学術文献情報に接することができるのです。一方で、文部省の学術情報センターも次第に軌道に乗りつつあり、すでに琉球大学とも接続されています。今後の発展が期待されます。

情報検索は、何も学術情報に限ったことではありません。都市や町の情報がコンピュータで自由に検索できれば、あんな町、こんな町、そして似たような町、とても興味は尽きないことでしょう。

本稿は、これまでの書籍だけでは満たされなかった知的好奇心を満足させるコンピュータによる情報検索へのささやかな入り口となることを願って企画されました。また、十分な情報の蓄積（データベース化）がなされないと、本稿の内容も羊頭狗肉になってしまいます。皆様からのデータの提供と、ご協力を期待しております。

第1章 附属図書館と電算化の歴史

情報処理センターから機材一式が提供され、その指導のもとに附属図書館で電算化の検討を開始したのは昭和56年12月のことでした。翌年3月に最終的なスケジュールが決定され、関係者全員夏休みを返上して努力した結果、システムが完成したのは9月下旬のことでした。業務を始めたのは昭和57年10月22日、この時現在の閲覧管理システムが運用を開始しました。しかし、コンピュータを使ったのはこれが初めてではありませんでした。それ以前には、センターのコンピュータはFACOM 230-35の時代でしたが、雑誌の目録を80欄カードにパンチし、それをコンピュータで読み取り、形を整えて印刷物用の原稿を作成するといったことがなされていました。

閲覧管理システムが稼動を始めると、図書館の利用状況などに関する詳しい統計がとれるようになってきました。図書の返却を怠っている人には、きれいな督促状が送り届けられるようになり、一方で、人気図書ベスト10などの記事が「びぶりお」にも掲載されるようになりました。この閲覧管理システムを動かすためにはいくつかの苦労がありました。その第1は、その当時目録カードでしかなかった目録データを計算機に入力することでした。件数はおよそ8万件。その当時の沖縄には漢字データを図書館の要求通り入力できる業者也没有。幸い東京から進出したばかりの漢字データが扱える業者がありましたので、その業者にアドバイスして、ようやく磁気テープに入力することができました。

第2に、利用者である学生の氏名や所属などの情報也没有。これも独自に作成せざるを得ませんでした。これはその後の教務事務電算化の基礎データとなりました。

第3は、図書館職員にとっても、大きな試練が待ち受けていました。自分でプログラムが書けないと統計をとったり、データを変換する仕事が進まないのです。その当時としては何から何まで、一からコンピュータの勉強を始めなければならなかったのです。

最初の閲覧管理システムの開発から、早4年が過ぎ去ろうとしています。今年度（昭和61年9月頃）からは懐かしの閲覧管理システムも、ILISと呼ばれる統合化されたソフトウェア・パッケージ群に吸収されて行きます。これで今後のシステム開発は随分と楽になることでしょう。ILISではこれまでにない新しい業務も計画されています。そして、図書館職員には旧閲覧管理システムからのデータ変換などの移行作業も待ち受けています。昭和61年もまた思い出の年になりそうです。

1. 1 閲覧管理システムの概要

閲覧管理システムのオンライン部は、貸出用端末、返却用端末そして本体には、目録情報と利用者情報を搭載したFACOM V830（主記憶768KB、磁気ディスク146MB）から成り立っており、平均的には1日あたり600から700件程度の貸出、返却の処理を行っています。

年度末処理や利用統計、督促処理、データの加工などの比較的頻度の低い処理は大型計算機で行っています。

1. 2 ILISと図書館業務

ILISは、大学図書館および大規模な公共図書館向けに富士通で開発された図書館業務機械化のためのソフトウェア・パッケージ群です。

ILISの特長は概ね次のようになります。

- (1) 計算機の知識がなくても、画面を見ながら簡単に業務処理が行える。
- (2) 各図書館の実情に応じたシステムが構築できる。
- (3) 既存の利用者ID、図書IDおよびデータが利用できる。
- (4) 将来の理想システムをにらみながら、逐次開発、逐次運用ができる。
- (5) 関係データベース、オンライン分散処理により効率のよい図書館システムが構築できる。

ILISで計画中の図書館業務

業務名	処理の範囲	備考
閲覧管理	貸出, 返却, 予約, 検索, 督促, 統計	実施中
雑誌管理	予約, 契約, 受付, 支払, 製本, 目録, 検索	S61. 9-
図書管理	選書, 発注, 検収, 支払, 受入, 目録, 検索	S62. 4-
予算管理	予算差引, 内訳リスト	S62. 4-
情報検索	学術情報センター, 琉球大学	S61. 9-
目録検索		実施中

1. 3 学術情報センター（中枢センター）と大学図書館

学術情報センターと大学図書館の関係については、「大学図書館業務の電算化」（文部省学術国際局情報図書館課，昭和59年3月）にその概略が述べられていますので、ここにその一部を転載します。

学術情報システムは、国際的に流通する学術情報が急速に増大し、その範囲、内容、形態、および利用の態様が多様化している中で、優れた先導的・独創的な学術研究の発展を図るために、研究者が必要とする各種の学術情報を迅速・的確に提供することを目的としている。

この目的を実現するためには、(1)一次情報の収集・提供機能の充実、(2)情報検索システムの確立、(3)データベースの形成の促進が図られなければならない。

学術情報に関する各種の機能を総合的に実現するためには、人的・物的な各種資源の共有を基調理念とし、各関係機関を電算機と通信回線で結び、それらの全体が一つの統合化されたネットワーク構造として構築されなければならない。

この学術情報ネットワークは、主として一次情報を収集・提供する大学図書館、情報検索サービスを行う大型計算機センター及び国立大学共同利用機関によって構成され、ネットワークを形成する多くの機関が一つのシステムとして稼動するためには、中枢となる機関が必要であり、この役目を果たするのが学術情報センターである。

そして大学図書館の役割として次の三つを掲げています。

- (1) 一次情報の収集・提供機能の充実
- (2) 全国的な目録・所在情報形成への寄与
- (3) 情報検索の窓口

1. 4 雑誌データベース凡例

和雑誌データベースは1983年に行われた学術雑誌総合目録の全国調査の結果をもとに東京大学文献情報センターが作成した総合目録の一部です。洋雑誌は1980年の調査に基づくものです。

- (1) 書誌番号： 学術雑誌総合目録ID番号
- (2) 標題： 雑誌名
- (3) 巻次年月次： 初号の巻号および年月次－終号巻号および年月次
- (4) ISSN： International Standard Serial Number 国際標準逐次刊行物番号
- (5) 変遷 継続前誌：当該雑誌の誌名変更を行う前の誌名
継続後誌：当該雑誌の誌名変更を行った後の誌名
吸収前誌：当該雑誌が吸収する前の誌名
吸収後誌：当該雑誌を吸収した後の誌名
派生前誌：当該雑誌が派生する前の誌名
派生後誌：当該雑誌から派生した後の誌名
- (6) 所蔵館 琉大：本館（一部は理学部数学科，物理学科で所蔵）
琉大医：医学部分館
- (7) 異誌名：欧文誌名などの表示

第2章 情報処理センターの利用

2. 1 情報処理センターとその役割

情報処理センターは、学内共同利用施設として、昭和51年8月に設立されました。設立時から昭和57年12月までは、FACOM 230-35という計算機で、全学の計算需要をまかなってきましたが、この機械の性能は、現在のオフィスコンピュータにも及ばないものでした。昭和57年1月になると、比較的大型の計算機であるFACOM M180II-ADに置き換えられ、今日に至っています。この計算機はそれまでのものとは大きく異なり、主記憶12MB（メガ・バイト）、磁気ディスク容量5GB（ギガ・バイト）の大きなシステムとなりました。光通信システムが通信の中核となり、TSS端末装置が学内各所に配置され、ソフトウェアやハードウェアは日本語処理が可能となり、情報化時代にふさわしい設備を有することになりました。この結果、図書館や学務関係のEDP化が、大きく前進することになりました。また、NTTのDDX回線によって、全国共同利用大型計算機センターや筑波大学学術情報処理センターとも接続されています。このようなコンピュータネットワークはN1-NETと呼ばれており、このネットワークを通して東京大学のTOOL-IRや、筑波大学のUTOPIAなどの文献情報データベースをアクセスすることができますので、多くの研究者達の文献情報の収集活動の助けとなっています。センターはこのような外部のセンターの窓口にもなっており、他大学への利用申請の取り扱いや、利用に関する相談も行っています。

2. 2 利用申請

情報検索サービスを受けたり、自分のプログラムを実行するには、センターに課題登録申請をし、利用の許可を受け、ユーザIDの交付をしてもらう必要があります。

センターの利用資格は、利用規程によると、次のようになります。

- (1) 本学の教官が研究又は教育のために利用するとき。
- (2) 本学の学生が教官の指導のもとに研究又は実習のために利用する必要があるとき。
- (3) 本学の事務系職員が業務上利用するとき。

そのほか、利用負担金についても次のように定められています。

- (1) 利用者は別表に定める経費を負担しなければならない。

センターに利用申請を済ませると数日以内に許可を受けられるでしょう。更に、N1-NETを通して七大学の大型計算機センターを利用しようとする人は、センターの窓口で申請書を入手し、所定の手続きをとります。

上記いずれも有効期限は原則として当該年度末となっていますので、次年度も継続して利用しようとするれば継続のための申請も年度末に必要なことをお忘れなく。

2. 3 N1-NETによる他大学の利用

N1-NETを利用して他大学のデータベースにアクセスしようとするときは、READYの状態のときにNVTコマンドを用いて相手大学を呼び出します。接続が完了したら、その後は当該大学の利用の手引等に従って情報検索サービスを呼び出します。

N1-NETによる筑波大学の利用例

```
READY
NVT TSUKUBA      ←ホスト名(TSUKUBA)は筑波大学学術情報処理センター
KCQ10124I CONNECTED TO HOST -TSUKUBA
KTS010I ENTER ID -
XXX/XXX          ←筑波大の課題番号とパスワードを入力
KEQ56455I CT28 LOGON IN PROGRESS AT 11:24:23 ON DECEMBER 12, 1985
READY
TERM LINESIZE(80)
READY
UTOPIA J         ←UTOPIAの起動
UTOPIA LOGIN PROCESS STARTED
```


第2部 情報検索

ここでは情報検索の方法を具体的な例をもとに説明します。

- (1) 情報検索システムFAIRSとはどんなものか
- (2) 端末と情報処理センターの計算機とを接続する方法
- (3) ログオンの方法 (LOGONコマンド)
- (4) 漢字入力の方法
- (5) 情報検索を始めるには (IRSコマンド)
- (6) データベースの選択と項目の表示 (SELECT, SHOWコマンド)
- (7) 検索例 (SEARCH, BROWSE, OUTPUTコマンド)
- (8) 検索で使うコマンドの詳しい説明

第1章 情報検索サービスと利用方法

1. 1 情報検索システムとFAIRS

情報の検索を能率的に行うための工夫は、何もコンピュータを使ったものばかりではありません。求める書籍がどこにあるかを容易に知るために本の背には請求記号が記され、書架には請求記号順に配置されています。また、書名や書者名をもとに目録カードがつくられ、より迅速に必要な本が手に入れられるような工夫がなされています。

コンピュータが容易に利用できるようになると、当然のことのように、それらをコンピュータの磁気ディスクファイルに格納し、さまざまな目的に活用しようとする動きが出てきました。こうして格納されたコンピュータ上の情報を利用して、自分の希望する本を見つけるようなプログラムを作成するのは、そんなに困難なことではありません。簡単に考えれば、格納されているファイルの先頭から順に探して行けばよいからです。しかし、この方法は恐ろしく原始的な方法であって、数千件を超えて、多様な条件のもとで検索しようとする、ちょっとした大型コンピュータでも、結果が出るまで多くの時間がかかります。このように、格納されているデータを直接探し回る方法は、マスターファイルの検索と呼ばれていて、他に手段がない時に用いられる方法です。

目録カードが書名順や著者名順につくられているように、検索に必要な項目のデータだけを集めて索引をつくります。今度は、マスターファイルの検索の代わりに、この索引を格納したファイルを検索するように検索方法を変えます。こうすれば、以前に比べてはるかに高速な検索が可能になるでしょう。この方法は、転置ファイル(INVERTED INDEX FILE)法と呼ばれていて、FAIRSではこの方法で高速な検索を行います。これらのことから、FAIRS上に作成されたデータベースは、作成者の考えに基づいて、いくつかの項目に分割され、それぞれには項目名が与えられています。また、それぞれの項目は、これを索引とするか否かが作成者によって決定されます。従って、索引項目として定義された項目は、項目名と検索者が与えた項目値をもとに高速に検索がなされてゆきます。

そして、検索時に与える条件は、いくつかの項目について同時に与えることができますから、利用者は膨大な情報の中から、自分の希望する情報に絞りこんでゆくことができるのです。その他にも、ある項目が文章形式のようになっていたとしたら、それを単語に分割し、その単語をもとに索引をつくっていく機能があります。文章から単語を切り出す際に、ANDやTHEなどのように検索には通常用いない不要語(STOP WORD)を取り除く機能があります。こうしてつくられた索引をキーワード・インデックスと呼んでおり、和雑誌と洋

雑誌のデータベースでは、書名の読みをこうした方法で索引にしています。このようなことから、利用者は書名の一部を利用して、必要な雑誌がどれであるかを容易に決定することができます。雑誌データベースでのキーワード項目は「KW」という項目名が与えられていますので、本稿をお読みになる際には記憶に留めて置いていただきたいと思います。

第2章 情報検索の実際

2. 1 計算機との接続（ログオン）および切断（ログオフ）

センターの利用資格を得、ユーザIDの交付を受けると、計算機を実際に利用することができるようになります。計算機の動作に必要な指示は、利用者が端末装置のキーボードからコマンドを打ち込むことによって行います。

2. 1. 1 端末機とセンターとの接続

センターと直接接続されている端末機（F6652, F6682等）は電源を投入してしばらくすると、動作可能な状態になります。公衆回線を利用してパーソナル・コンピュータなどを利用している人は、次の電話番号に接続します。

情報処理センターの公衆網電話番号

	通信速度(BPS)	モデム規格	電話番号
内 線	3 0 0	CCITT V21	3 2 3 0～3 2 3 6
“	1 2 0 0	CCITT V22	—
局 線	3 0 0	CCITT V21	5－4 4 8 1
“	1 2 0 0	CCITT V22	—

通信方式	半二重
伝送制御手順	無制御手順
同期方式	調歩同期(スタート1ビット, ストップ1ビット, パリティ(偶数)1ビット)
使用コード	JIS C6220 7ビット(英カナ端末機) JIS C6226 7ビット×2列(漢字端末機) ASCIIコード 7ビット(ASCII英字端末機)
漢字制御コード	漢字へ切り替え ESC, \$, @ X'1B2440' 英字へ切り替え ESC, (, H X'1B2848'

うまく接続できたら「ピー」という音が聞こえますから、端末機にあるBREAKキーを一度押します。

2. 1. 2 LOGONコマンドの入力

以上の操作が終わりますと、LOGONコマンドを入力して、自分が正当な利用者であることを計算機に知らせます。この際、利用許可書に記載されている「ユーザID」と「パスワード」を使うことになります。

LOGON TSS ユーザID/パスワード

もし、パスワードの入力を省略して次のように行ったら、

LOGON TSS ユーザID

KEQ56714A ENTER CURRENT PASSWORD FOR ユーザID
とメッセージが出力され、登録されているパスワードの入力を促します。

その結果、正しい利用者であることが計算機に伝わると、

KEQ56455I ユーザID LOGON IN PROGRESS AT XX:XX:XX ON
JUNE 10, 1986

と出力し、更にセンターからのメッセージがあれば、そのあとに表示されます。

以上が完了すると、画面上に、

READY

が表示され、計算機との接続と、ログオンの手続きは終了します。

このようにREADYが表示されている状態をコマンド・モードと呼び、この状態のときに、

LOGOFF

と入力すると、計算機との接続が解除されます。

2. 2 フルスクリーンモードとカナ（ローマ字）漢字変換

端末機それ自身に漢字入力機構がついていなければ、FAIRSがもっているローマ字

漢字変換機能を利用して漢字入力を行います。ただし、この機能はフルスクリーンモードでないと利用できませんから、「FS ON」を入力してモードを切り替えておきます。

2. 2. 1 入力規約

変換する文字列は次の表に示す規約にそって入力してください。

指 定	入力形式	変換結果
指定なし	……	漢字仮名交じり文
無変換	/……/	変換なし
ひらがな	H/……/	ひらがな
カタカナ	K/……/	カタカナ
非漢字	G/……/	指定した非漢字
英小文字	S/……/	英小文字
和数字	W/……/	指定した和数字

(1)指定なし

漢字仮名交じり文に変換する。

(例) RYUUKYUU → 琉球

(例) ダイガク → 大学

ローマ字の記法はヘボン式、訓令式のいずれでもよい。ローマ字で「ン」を表わす「N」と、次の母音あるいは「Y」の間を区切らなければ、読み方が曖昧になる場合がある。例えば、

KANYUU

と書かれたローマ字は「カニユウ」とも「カンユウ」とも読める。この曖昧さを解消するためにセミコロンを使用します。

KANYUU→カニユウ

KAN ; YUU→カンユウ

(2)無変換指定

EBCDICコードを対応する漢字コードに変換します。

(例) /ABCD/ → ABCD

(例) /T#HIS/ → This

2.2.2 変換規則

P F 4 キーを押すと、カナ（ローマ字）漢字変換または再変換を行います。このとき、変換する文字列は次の規則で決めます。

(1)変換するとき

- 変換文字列の終端は現カーソル位置の一つ前の文字である。
- 終端からさかのぼって、以下のいずれかの文字が現われるまでの文字列を変換対象とする。

- ・ 漢字コードの文字
- ・ 空白
- ・ 単独の引用符
- ・ @, ?, (

(2)再変換するとき

現カーソル位置の一つ前の文字が漢字コードである場合、直前に変換した文字列を再変換する。

（例） RYUUKYUU → 龍結
（例） KYUUKYUU → 龍大

（例） \ABCD \ → ABCD
（例） \THIS \ → This

2. 3 情報検索サービスの開始と終了

情報処理センターでは、情報検索システムとして富士通製のFAIRSを利用しています。従って、FAIRSを起動するには、FAIRSが実行時に必要とするデータセットを割り当ててからでないと、正常な動作を保障できません。このためセンターでは、必要なデータセットの割り当てと、FAIRSの起動を同時に行うためのコマンドを提供しています。利用者は、端末機の画面にREADYが表示された状態で、IRSコマンドを入力することによって、情報検索サービスを開始します。

```
READY
IRS
ENTER DB NAME ==>
```

この例のように、ENTER DB NAME ==> と表示され、データベースの名前をたずねてきますから、ZASSI か MAGAZINE と入力しデータベースの選択を要求します。

「ZASSI」は和雑誌、「MAGAZINE」は洋雑誌のデータベースに与えられた名前です。その他のデータベース名については、次節以降に「データベースの確認」や「データベースの選択」に関する記述がありますので、そちらを参照してください。

検索サービスを終了するには、

```
RS>
```

と表示されている状態のときに、ENDコマンドを入力します。

```
RS> END
```

さらに、FAIRS> と表示されるようであれば、同じくENDコマンドを入力し、READYが表示されるのを待ちます。また、READYの状態で、LOGOFFコマンドを入力すれば、計算機との接続も終了することができます。

2. 4 利用可能なデータベースの確認

FAIRSの利用者は、自分が利用できるデータベースにはどんなものがあるかを、SHOWコマンドにDBオペランドを付加したもので、確認することができます。

ここで表示された名前は、あとでSELECTコマンドのオペランドとして使用されます。希望するデータベースが、複数のサブファイルをもつときは、SHOW DB LISTとすることによって、それらの詳しい状況を知ることができます。サブファイルの名前は、もしもそのデータベース全体ではなくて、個々のサブファイルの検索のみを必要とすることになった場合、SELECTコマンドで、データベース名とともにSUBFILEオペランドで、そのうちのいずれかを指定します。

```
RS> SHOW DB
```

あなたが利用できるデータベースは次の通りです。

```
CITY      MAGAZINE  ZASSI
```

```
RS> SHOW DB LIST
```

あなたが利用できるデータベースは次の通りです。

```
DATABASE      COUNT
```

```
CITY           3544
```

```
SUMMARY : 日本地名データベース
```

```
(NIPPON )      3544
```

```
SUMMARY : 日本の市区町村名
```

```
MAGAZINE       736
```

```
SUMMARY : 洋雑誌データベース
```

```
(FOREIGN )     736
```

```
SUMMARY : 洋雑誌
```

```
ZASSI          666
```

```
SUMMARY : 和雑誌データベース
```

```
(JAPANESE)     666
```

```
SUMMARY : 和雑誌
```

2. 5 データベースの選択と項目の表示

SHOW DBコマンドで希望するデータベース名を見つけたら、自分がこれより検索を行なうのはどのデータベースであるかをFAIRSに知らせます。そのためには**SELECT**コマンドのオペランドにデータベース名を指定します。さらに必要であれば、**SUBFILE**オペランドにサブファイルの名前を指定します。**SELECT**コマンドで**SUBFILE**の指定がなされなかった場合は、そのデータベース上のすべてのサブファイルが選択されたものと解釈されます。

データベースの選択が完了すれば、そのデータベースにどんな項目のデータがあるかを確認しなければ、実際の検索を行なうことはできません。**SHOW ELEMENT**コマンドによって、すべての項目名を知ることができますが、項目の名前のつけかたはデータベースの作成者の判断で行なうことですから、当然のことながら、データベースごとに異なったものになります。次に、**SHOW ELEMENT LIST**を入力して更に詳しい情報を得れば、それらの項目がどんな属性を与えられているかを知ることができます。

例えば、「**OUTPUT**」と表示されていれば、その項目は検索結果を表示させるコマンド**OUTPUT**をオペランドなしに実行した場合、無条件に画面またはプリンタに表示されることになります。また、「**INDEX INVERTED**」と表示されていれば、検索コマンド**SEARCH**で項目名にそれを指定した場合、データベース内の転置ファイルをもとに、高速に検索を行なうことができることになります。また、**BROWSE**コマンドでどんな索引データがあるかを表示させることもできます。特に注意すべきは「**NIHONGO**」と表示されているもので、これは検索に際しても、表示に際しても日本語として扱われ、端末機に漢字データの表示機能と入力機能を持つことが必要です。**NIHONGO**の表示のない項目は、キーボードにある英数字やカタカナを用いて検索(**SEARCH**, **AND**, **OR**, **NOT**)や通覧(**BROWSE**)を行なうことができます。

```
RS> SEL      ZASSI          ←和雑誌データベースの選択
```

```
RS> SHO      ELEMENT LIST   ←全項目名の表示
```

利用できる項目名は全部で21個です。

1 BID(ID)

HEADER('書誌番号')

KEY; CHARACTER; FIXED; ADJ(LEFT); OUTPUT; INDEX INVERTED;

OCC(1); LENGTH(10);

2 TRS (TR)

HEADER('標題')

TEXT; OUTPUT; LENGTH(1000); NIHONGO;

3 TRR

HEADER('標題の読み')

TEXT; NOOUTPUT; LENGTH(1000);

4 VLYR (CHRS)

HEADER('巻次年月次')

CHARACTER; VARIED; ADJ(LEFT); OUTPUT; OCC(1); LENGTH(1000);

NIHONGO;

5 TTLL (CTGL)

HEADER('標題言語')

CHARACTER; FIXED; ADJ(LEFT); NOOUTPUT; INDEX INVERTED; OCC(1);

LENGTH(3);

6 TXTL (LG)

HEADER('記述言語')

CHARACTER; FIXED; ADJ(LEFT); OUTPUT; OCC(1); LENGTH(3);

7 GMD

HEADER('資料種別')

CHARACTER; FIXED; ADJ(LEFT); OUTPUT; OCC(1); LENGTH(1);

8 ISSN

HEADER('ISSN')

CHARACTER; FIXED; ADJ(LEFT); OUTPUT; INDEX INVERTED; OCC(1);

LENGTH(8);

9 YEAR1 (PBLYR1)

HEADER('出版開始年')

CHARACTER; FIXED; ADJ(RIGHT); OUTPUT; INDEX INVERTED; OCC(1);

LENGTH(4);

10 YEAR2 (PBLYR2)

HEADER('出版終了年')

CHARACTER; FIXED; ADJ(RIGHT); OUTPUT; INDEX INVERTED; OCC(1);

LENGTH(4);

11 PUB (PLC)

HEADER('出版地')

CHARACTER; VARIED; ADJ(LEFT); OUTPUT; INDEX INVERTED; OCC(1);
 LENGTH(400); NIHONGO;

12 CNTRY(CTR)
 HEADER('出版国')
 CHARACTER; VARIED; ADJ(LEFT); NOOUTPUT; INDEX INVERTED;
 OCC(1); LENGTH(10);

13 BHNT(TRNTYP)
 HEADER('変遷')
 CHARACTER; VARIED; ADJ(LEFT); OUTPUT; OCC(30); LENGTH(1000);
 NIHONGO;

14 NOTE(NT)
 HEADER('注記')
 CHARACTER; VARIED; ADJ(LEFT); OUTPUT; OCC(10); LENGTH(200);
 NIHONGO;

15 LNAME(ABLBN)
 HEADER('所蔵館')
 CHARACTER; VARIED; ADJ(LEFT); OUTPUT; INDEX INVERTED; OCC(10);
 LENGTH(200); NIHONGO;

16 VTG(OT)
 HEADER('異誌名')
 CHARACTER; VARIED; ADJ(LEFT); OUTPUT; OCC(10); LENGTH(400);
 NIHONGO;

17 HLV
 HEADER('所蔵巻号')
 CHARACTER; VARIED; ADJ(LEFT); OUTPUT; OCC(10); LENGTH(400);

18 HLYR
 HEADER('所蔵年')
 CHARACTER; VARIED; ADJ(LEFT); OUTPUT; OCC(10); LENGTH(100);

19 CONT(INTIND)
 HEADER('継続')
 CHARACTER; FIXED; ADJ(LEFT); OUTPUT; INDEX INVERTED; OCC(10);
 LENGTH(1);

20 KW(TI)
 HEADER('KW')

KEYWORD INVERTED;

21 NKW(NT1)

HEADER('NKW')

KEYWORD INVERTED; NIHONGO;

RS> SHO INDEX ←インデックス項目名の表示

利用できる項目名は全部で9個です。

BID(ID) TTLL(CTGL) ISSN YEAR1(PBLYR1) YEAR2(PBLYR2)

PUB(PLC) CNTRY(CTR) LNAME(ABLIBN) CONT(INTIND)

RS> SEL MAGAZINE ←洋雑誌データベースの選択

RS> SHO ELEMENT LIST

利用できる項目名は全部で20個です。

1 BID(ID)

HEADER('書誌番号')

KEY; CHARACTER; FIXED; ADJ(LEFT); OUTPUT; INDEX INVERTED;

OCC(1); LENGTH(10);

2 TRS(TR)

HEADER('標題')

TEXT; OUTPUT; LENGTH(1000); NIHONGO;

3 TRR

HEADER('標題の読み')

TEXT; NOOUTPUT; LENGTH(1000);

4 VLJR(CHRS)

HEADER('巻次年月次')

CHARACTER; VARIED; ADJ(LEFT); OUTPUT; OCC(1); LENGTH(1000);

NIHONGO;

5 TTLL(CTGL)

HEADER('標題言語')

CHARACTER; FIXED; ADJ(LEFT); NOOUTPUT; INDEX INVERTED; OCC(1);

LENGTH(3);

6 TXTL (LG)

HEADER('記述言語')

CHARACTER; FIXED; ADJ(LEFT); OUTPUT; OCC(1); LENGTH(3);

7 GMD

HEADER('資料種別')

CHARACTER; FIXED; ADJ(LEFT); OUTPUT; OCC(1); LENGTH(1);

8 ISSN

HEADER(' I S S N')

CHARACTER; FIXED; ADJ(LEFT); OUTPUT; INDEX INVERTED; OCC(1);
LENGTH(8);

9 YEAR1 (PBLYR1)

HEADER('出版開始年')

CHARACTER; FIXED; ADJ(RIGHT); OUTPUT; INDEX INVERTED; OCC(1);
LENGTH(4);

10 YEAR2 (PBLYR2)

HEADER('出版終了年')

CHARACTER; FIXED; ADJ(RIGHT); OUTPUT; INDEX INVERTED; OCC(1);
LENGTH(4);

11 PUB (PLC)

HEADER('出版地')

CHARACTER; VARIED; ADJ(LEFT); OUTPUT; INDEX INVERTED; OCC(1);
LENGTH(400); NIHONGO;

12 CNTRY (CTR)

HEADER('出版国')

CHARACTER; VARIED; ADJ(LEFT); OUTPUT; INDEX INVERTED; OCC(1);
LENGTH(10);

13 BHNT (TRNTYP)

HEADER('変遷')

CHARACTER; VARIED; ADJ(LEFT); OUTPUT; OCC(30); LENGTH(1000);
NIHONGO;

14 NOTE (NT)

HEADER('注記')

CHARACTER; VARIED; ADJ(LEFT); OUTPUT; OCC(10); LENGTH(200);
NIHONGO;

15 LNAME (ABLIBN)

HEADER('所蔵館')

CHARACTER; VARIED; ADJ(LEFT); OUTPUT; INDEX INVERTED; OCC(10);
LENGTH(200); NIHONGO;

16 VTG (OT)

HEADER('異誌名')

CHARACTER; VARIED; ADJ(LEFT); OUTPUT; OCC(10); LENGTH(400);
NIHONGO;

17 HLV

HEADER('所蔵巻号')

CHARACTER; VARIED; ADJ(LEFT); OUTPUT; OCC(10); LENGTH(400);

18 HLYR

HEADER('所蔵年')

CHARACTER; VARIED; ADJ(LEFT); OUTPUT; OCC(10); LENGTH(100);

19 CONT (INTIND)

HEADER('継続')

CHARACTER; FIXED; ADJ(LEFT); OUTPUT; INDEX INVERTED; OCC(10);
LENGTH(1);

20 KW (TI)

HEADER('KW')

KEYWORD INVERTED;

RS> SHO INDEX

利用できる項目名は全部で9個です。

BID (ID)	TTLL (CTGL)	ISSN	YEAR1 (PBLYR1)	YEAR2 (PBLYR2)
PUB (PLC)	CNTRY (CTR)	LNAME (ABLIBN)	CONT (INTIND)	

RS> END

FAIRS> END

FAIRS 終了。

2. 6 SEARCHコマンドの使い方 (条件検索)

SELECTコマンドによってデータベースが選択されていると、項目名を項目値とともに適当な条件で指定すると検索を行うことができるようになります。検索に使用されるコマンドはSEARCH、AND、OR、NOT、BROWSEなどのうちのいくつかとなります。検索条件の与え方は、項目と項目値との間にEQ、NEなどの関係演算子を指定することによって行います。和雑誌データベースを例にとってみますと、項目名PUBは出版地を表わすNIHONGO項目ですので、漢字データで項目値を与えます。YEAR1は出版開始年を表わしますので、西暦で指定します。

PUB EQ 仙台@ または PUB = 仙台@

は

PUB 仙台@

と略記し、項目値「仙台」で始まるものを検索することにします。YEAR1>=1950は出版開始年が1950年以降を検索条件とします。このように大小比較ができるのは、項目の属性に右詰め項目ADJ(RIGHT)となっているものに限られますが、SHOW INDEX LISTコマンドなどによって確認することができます。個々の検索用コマンドの詳細は、後述の「検索コマンド詳説」を参照してください。

以下の検索例では、関係式と関係式のAND条件で結合していますが、このような指定は、通常の論理集合におけるAND条件、すなわち、2組の条件が同時に成立するようなものを検索対象とします。このほかORで結合すれば、いずれかの一方が成立するだけでも検索対象となり、ANDとは全く異なった結果を生じます。

「文字式の与え方」

文字式の与え方を知っておかなければ、能率的な検索はできません。

完全一致	仙台
前方一致	仙台@
後方一致	@仙台
両端一致	仙台@学会
任意一致	@仙台@

完全一致の場合は、完全に一致するものしか検索できません。それに対して@を利用したものは部分的に与えた文字式が一致すれば検索できますので、より広い範囲を検索することができます。

このように、@はその部分がどんな綴りであってもよいことを表わしています。また、指定しようとする文字式が、区切り記号(空白やコンマなど)を持っていたり、FAIRSで使

われている予約語 (AND, NOT, OR, ADJ, WITH, SAME, EQ, NE, GT, GE, LT, LE, HAS, HASNTなど)を持っている場合などは、アポストロフィでくくって明瞭に区別しなければなりません。

(使用例)

```
RS> SEA TRR EQ 'I. E. E. E. TRANSACT'@
RS> SEA KW EQ JAPANESE OR ENGLISH
RS> SEA (KW EQ JAPANESE OR ENGLISH) AND LITERATURE
RS> SEA KW EQ COMP@TER OR COMP@TRE
```

(1) 関係演算子

次の表に関係演算子を示しますが、項目の属性によって使用可能なものと不可能なものがあります。

関係演算子	省略形	意 味	左詰	右詰	文章
EQ	=	項目の値が文字と等しい	○	○	○
NE	≠	項目の値が文字式と等しくない	○	○	○
GT	>	項目の値が文字式より大きい		○	
GE	>=	項目の値が文字式より大きいか小さい		○	
LT	<	項目の値が文字式より小さい		○	
LE	<=	項目の値が文字式より小さいか等しい		○	
HAS		項目の値が文字式の語を含んでいる			○
HASNT		項目の値が文字式の語を含んでいない			○

(例) 和雑誌で、出版地が仙台かつ出版開始年が1950年以降

RS> SEL ZASSI ←和雑誌データベースの選択

RS> SEA PUB EQ 仙台@ AND YEAR1>=1950 ←条件検索

3 冊みつかりました。

RS> OUT ←検索結果の画面表示

#1

書誌番号 AN0006256X
 標題 日本金屬學會誌. A / 日本金屬學會
 卷次年月次 14卷1號(昭25.1) - 15卷12號(昭26.12)
 出版開始年 1950
 出版終了年 1951
 出版地 仙台 : 日本金屬學會
 変遷 継続前誌: 日本金屬學會誌<AN00187860>
 継続後誌: 日本金屬學會誌<AN00062446>
 所蔵館 琉大
 異誌名 The journal of the Japan Institute of Metals. A
 所蔵巻号 14-15
 所蔵年 1950-1951

#2

書誌番号 AN00187849
 標題 日本金属学会会報 / 日本金属学会
 卷次年月次 1巻1号(昭37.1) -
 ISSN 00214426
 出版開始年 1962
 出版地 仙台 : 日本金属学会
 注記 丸善(発売)
 所蔵館 琉大
 異誌名 Bulletin of the Japan Institute of Metals
 所蔵巻号 1-13, 16-22
 所蔵年 1962-1983
 継続 +

#3

書誌番号 AN00193852

標題 日本生態学会誌 / 日本生態学会
 巻次年月次 4巻1号(昭29. 4) -
 ISSN 00215007
 出版開始年 1954
 出版地 仙台
 変遷 継続前誌: 植物生態学会報<AN00117967>
 所蔵館 琉大
 異誌名 Japanese journal of ecology
 所蔵巻号 8-33
 所蔵年 1958-1983
 継続 +

(例) 市区町村で、大和(ヤマト)を探す

RS> SEL CITY

RS> SEA KNAME @大和@ AND YOMI @ヤマト@

12 件見つかりました。

RS> OUT

日本の市区町村名

#1

コード 08504

名称 茨城県 真壁郡大和村

ヨミカタ イバラキケン マカベゲン ヤマトムラ

#2

コード 13220

名称 東京都 東大和市

ヨミカタ トウキョウト ヒガシヤマトシ

#3
 コード 14213
 名称 神奈川県 大和市
 ヨミカタ カナガワケン ヤマトシ

#4
 コード 15464
 名称 新潟県 南魚沼郡大和町
 ヨミカタ ニイガタケン ミナミウオヌマグン ヤマトマチ

#5
 コード 19305
 名称 山梨県 東山梨郡大和村
 ヨミカタ ヤマナシケン ヒガシヤマナシグン ヤマトムラ

#6
 コード 21482
 名称 岐阜県 郡上郡大和村
 ヨミカタ ギフケン グジヨウグン ヤマトムラ

#7
 コード 29202
 名称 奈良県 大和高田市
 ヨミカタ ナラケン ヤマトタカダシ

#8
 コード 29203
 名称 奈良県 大和郡山市
 ヨミカタ ナラケン ヤマトコオリヤマシ

#9
 コード 35342
 名称 山口県 熊毛郡大和町
 ヨミカタ ヤマグチケン クマゲグン ヤマトチヨウ

#10

コード 40562
名称 福岡県 山門郡大和町
ヨミカタ フクオカケン ヤマトグン ヤマトマチ

#11

コード 41305
名称 佐賀県 佐賀郡大和町
ヨミカタ サガケン サガグン ヤマトチヨウ

#12

コード 46523
名称 鹿児島県 大島郡大和村
ヨミカタ カゴシマケン オオシマグン ヤマトソン

(例) 村の読み方 (ムラまたはソン) の地域性を調べる

RS> SEA KNAME @村 AND YOMI @ソン

86 件見つかりました。

RS> OUT SYSOUT(B)

出力番号は 0001

RS> SEA KNAME @村 AND YOMI @ムラ

545 件見つかりました。

RS> OUT SYSOUT(B)

出力番号は 0002

RS>

2. 7 BROWSEを利用した検索

5000 辞書番代出

実際にSEARCHコマンドだけを使用して希望する情報に絞りこむのは、熟練者にとっても容易な事ではありません。英単語の活用形などによる変形を見逃してしまう場合などがあるからです。自分の意識している項目値の周辺に、どんな項目値が存在するかを通覧(BROWSE)することができれば、ねらいをはずす機会は一層少なくなることが予想されます。BROWSEコマンドは、このような場合に活用できる便利なコマンドです。項目値の指定に際しては、SEARCHコマンドのときと同様、前方一致、後方一致などの部分列を指定することもできますから、検索というよりも、単なる調査の目的にも活用することができます。BROWSEコマンドの結果は例に示すとおりですが、項目値の横に表示された数値は、その項目値をもつ情報が何件あるかを示しています。

BROWSEコマンドを実行しますと、左端に #記号とともに「語番号」が表示されます。後で検索を行うときに、この語番号を用いて入力を簡単にすることができます。さらに便利のように、#5:#8のように範囲を指定して複数の語番号を一気に指定することもできます。この場合はOR条件が指定された場合と同様に検索が実行されます。また、これらの語番号は、QENDコマンドでクリアしない限り、SELECTによってデータベースを切り替えた際にも、継続して利用することができます。

```
RS> SEL      ZASSI
```

```
RS> SHO      ELEMENT
```

利用できる項目名は全部で21個です。

BID(ID)	TRS(TR)	TRR	VLJR(CHRS)	TTLL(CTGL)
TXTL(LG)	GMD	ISSN	YEAR1(PBLYR1)	YEAR2(PBLYR2)
PUB(PLC)	CNTRY(CTR)	BHNT(TRNTYP)	NOTE(NT)	LNAME(ABL1BN)
VTG(OT)	HLV	HLJR	CONT(INTIND)	KW(TI)
NKW(NTI)				

```
RS> BRO      KW アジア
```

「KW」項目の索引語一覧

語番号	件数	項目値
#00001	1	アイゴ

#00002	1 アイゴカイ
#00003	1 アグネ
#00004	1 アグネシャ
* #00005	2 アジア
#00006	1 アポロンシャ
#00007	1 アマミ
#00008	2 アミノサン
#00009	1 アユミ
#00010	1 イ

RS> SEA KW #5

2 冊みつかりました。

RS> OUT

琉球大学附属図書館提供・和雑誌目録情報

#1

書誌番号	AN00011026
標題	アジア経済 / アジア経済研究所
巻次年月次	1 巻 1 号 (1960. 5) -
I S S N	00022942
出版開始年	1960
出版地	東京
所蔵館	琉大
所蔵巻号	1-5, 7, 9-11, 14-15, 19, 21, 23-24
所蔵年	1960-1983
継続	+

#2

書誌番号	AN00166463
標題	東南アジア研究 / 京都大学東南アジア研究センター
巻次年月次	1 号 (1963) - 4 号 (1964) ; 2 巻 1 号 (1964. 9)

ISSN	05638682
出版開始年	1963
出版地	京都 : 京都大学東南アジア研究センター
所蔵館	琉大
異誌名	Southeast Asian studies
所蔵巻号	1-13, 16-18
所蔵年	1963-1980

RS> QEND

RS> BRO TR 沖縄a

「TR」項目の索引語一覧

語番号	件数 項目値
* #00001	1 沖縄
#00002	1 沖縄医学会
#00003	1 沖縄医学会雑誌
#00004	1 沖縄県公害衛生研究所
#00005	1 沖縄県小児保健協会
#00006	1 沖縄県農業試験場
#00007	1 沖縄県立中部病院
#00008	1 沖縄公衆衛生学会記録集
#00009	1 沖縄公衆衛生協会
#00010	1 沖縄史料編集所
#00011	1 沖縄史料編集所紀要

RS> SEA TR #1:#9

7 冊みつかりました。

RS> OUT SYSOUT(B) POINT(9)

2. 8 検索結果の表示

SEARCHコマンドなどで検索した結果を画面に表示したり、日本語ラインプリンタ(NLP)に出力したりするために「OUTPUT」コマンドが用意されています。

通常の場合は単にOUTPUTまたはOUTと入力するだけで十分と考えられますが、件数が多い場合や、表示項目が希望と一致しない場合などは、オペランドで条件を指定します。

(1)レコードの選択

何件めから何件めまでを表示する、といった場合は、「RECORD」オペランドを用います。

(例) OUTPUT RECORD (1:10)

または、

(例) OUT R (1:10)

(2)項目の選択表示

必要な項目だけを表示させるには、「ELEMENT」オペランドを用い、カッコの中に項目を列挙します。

(例) OUT EL (TRS, PUB, BHNT)

(3)保存されている検索結果を表示する。

SAVEコマンドや、自動SAVE機能を使った場合、保存されている検索結果を表示させるためには、「SET」オペランドを用いて、集合の番号を指定します。

(例) OUT SET (¥1) R (1:5) EL (TRS)

(4)日本語ラインプリンタへの出力

検索結果が大量の場合や、きれいなハードコピーを必要とする場合は、「SYSOUT」オペランドを用いることによって、日本語ラインプリンタに出力させることができます。

カッコの中には出力先に相当するシスアウトクラス名を指定します。

(例) OUT SYSOUT (B)

第 3 章 検索用コマンド詳説

検索サブシステム (RS) で使用できるコマンドは次の通りです。

- AND : 現集合に更に条件を付け加えて絞り込む
- BROWSE : 索引語を通覧する
- CANCEL : 保存集合、保存語番号、カタログなどを消去する
- END : 検索サブシステムを終わらせる
- EXPLAIN : コマンドの使用方法を表示する
- FS : 端末の画面モードをフルスクリーンモード／通常モードに切り換える
- HELP : 会話の進行を助ける
- HISTORY : 会話の経過を表示する
- INDEX : 索引誌を作成する
- NOT : 現集合より、ある条件のレコードを取り除く
- OPTIONS : 検索結果集合の取り扱いに関するオプションを切換える
- OR : ある条件のレコードを現集合に追加する
- OUTPUT : 集合の内容を表示する
- PFK : PF キーにコマンド文字列を設定する。
- QEND : 一連の検索を終了する
- SAVE : 集合、カタログなどを保存する
- SEARCH : 条件式により検索して現集合をつくる
- SELECT : 検索すべきデータベースを選択する
- SHOW : データベースの状態や項目名、その他の保存情報を表示する
- SORT : 集合を項目値により並べかえる

3. 1 ANDコマンド

機能 現集合から、指定した条件を満たすレコードを抽出して、現集合を作成する。

形式 AND 「論理式」

オペランド 「論理式」
「関係式」、「集合名」、あるいは、それらを「論理演算子」及びかっ
こで結んだもので検索条件を記述する。

「関係式」

ある項目が満たすべき条件を次の形式で指定する。

「項目名」 「関係演算子」 「文字式」

または

「項目名」 「関係演算子」 「文章検索式」

「項目名」

検索の対象とする項目またはキーワードインバーテッド項目の名前、も
しくは別名を指定する。特にマスタファイル上で検索したいときは、項
目名の後に .M をつける。

項目名が「論理演算子」または「関係演算子」と同じ綴りの場合は、引
用符で囲むこと。

「関係演算子」

項目値を「文字式」または「文章検索式」と比較したときに満たすべき
関係を次のいずれかで指定する。

EQ(=) NE(≠) GT(>) GE(>=) LT(<) LE(<=)

HAS HASNT

「文字式」

項目値と比較する文字列を指定する。項目値の一部が任意であることを
示すため @を文字列の中に1個だけ、または文字列の前・後・前後に指
定することができる。また、連続する ?を @の代わりに用いると、任意
部分の文字数が ?の個数と等しいものだけが対象となる。なお、文字列
が「項目名」または「論理演算子」または「関係演算子」と同じ綴りの
ときは、文字列を引用符で囲むこと。

「論理演算子」

AND 論理積

OR 論理和

NOT 論理差

「文章検索式」

「文字式」を下記の「文章検索演算子」で結んだもの。

ADJ この前後の文字列が文章中で連続して現われる。

WITH この前後の文字列が一つの文の中に現われる。

SAME この前後の文字列が同一の項目中に現われる。

ADJ は、省略して、文字列を空白で区切って指定してもよい。

なお、文章検索式は、文章項目またはキーワードインバーテッド項目に対してのみ使用できる。

「集合名」

以前に保存した集合を検索条件の一部に利用したいとき指定する。

3. 2 BROWSEコマンド

別名 BRO

機能 インバーテッドファイル中の索引語を表示する。

形式 BROWSE 「項目名」 「関係演算子」 「文字式」

SPAN(「件数」) または

FORWARD(「件数」) または

BACKWARD(「件数」)

注意 「項目名」、「関係演算子」、「文字式」は省略できない。

オペランド 「項目名」

表示すべき項目の名前または別名を指定する。

「関係演算子」

表示される索引語が満たすべき条件を下記の関係演算子と次に述べる文字式により指定する。

EQ(=) GT(>) GE(>=) LT(<) LE(<=) HAS

「文字式」

表示の基準となる文字列を指定する。「関係演算子」とこの「文字式」の示す条件に合致した索引語だけが、表示される。文字列の一部が任意であることを示すため、@を使用することができる。また、連続する?を@の代わりに用いると、任意文字の数が?の個数と等しいものだけが対象となる。

SPAN(「件数」) または

FORWARD(「件数」) または

BACKWARD(「件数」)

表示すべき索引語の個数を指定する。省略すると、条件に合致した索引語がすべて表示される。ただし、「関係演算子」として EQ または、HAS を指定し、「文字式」中に @ または ? を使用しなかったときは、「文字式」の付近を中心として前、後、または前後に、この指定件数分の索引語が表示される。

FORWORD : 索引語が大きくなる方向

BACKWORD : 索引語が小さくなる方向

SPAN : 両方向

3. 3 CANCEL コマンド

別名 CAN

機能 任意の保存された語番号、集合、カタログや、現集合を消去したり、ユーザ出口ルーチンの結合を解除したり、編集用一時カタログを消去する。

形式 CANCEL TERM(「語番号」の並び、または ALL) または
SET(「集合名」の並び、または ALL) または
SET(*) または
CATALOG(「カタログ名」) または
EXIT2 または EXIT3 または EXIT4 または
SEQ(「行番号」、または
「行番号1」:「行番号2」)

標準値 SET(*)

オペランド TERM(「語番号」の並び、または ALL)

消去する語番号を指定する。

ALL が指定された場合には、全ての語番号が消去される。

SET(「集合名」の並び、または ALL)

消去する集合名を指定する。

ALL が指定された場合には、全ての集合が消去される。

SET(*)

現集合が消去される。

CATALOG(「カタログ名」)

カタログファイルに保存されているカタログを消去する。

EXIT2

DEFINE コマンドで定義された、論理式を修正するための出口ル

ーチンの結合を解除する。

EXIT3

DEFINEコマンドで定義された、文字式を修正するための出口ルーチンの結合を解除する。

EXIT4

DEFINEコマンドで定義された、編集・出力するための出口ルーチンの結合を解除する。

SEQ(「行番号」または「行番号1」:「行番号2」)

編集用一時カタログ上の行番号または指定された範囲の行番号をもつコマンドを消去する。

3. 4 ENDコマンド

機能 RS (検索サブシステム) を終了する。

形式 END

3. 5 EXPLAINコマンド

別名 EXP

機能 各コマンドの使用方法、及び、検索サブシステムで使用できるコマンドを一覧表示する。

形式 EXPLAIN 「コマンド名」

オペランド 「コマンド名」

ここで指定したコマンドの使用方法が表示される。ただし行番号コマンドについては * を指定すること。

「コマンド名」を指定しないときは検索サブシステムで使用できるコマンドの一覧表が表示される。

3. 6 FSコマンド

機能 端末の画面モードをフルスクリーンモード又は通常モードに切り換える

形式 FS ON 又は OFF
PAGE(画面数)

オペランド ON

画面モードをフルスクリーンモードにする。

OFF

画面モードを通常モードにする。

PAGE(画面数)

画面スクロール機能を利用するときの表示画面数を指定する。

3. 7 HELPコマンド

機能 検索サブシステムの案内。
このコマンドを入力すると、システムから問い合わせがなされるので、それに答えていくと必要な情報が得られる。

形式 HELP

3. 8 HISTORYコマンド

別名 HIS

機能 これまでに実行したコマンドと、システムからのメッセージを表示する。

形式 HISTORY 「戻りコマンド数」

オペランド 「戻りコマンド数」

表示すべきコマンドの数を指定する。省略すると、最新のQEND、SELECT、またはRSコマンドの直後から表示する。

3. 9 INDEXコマンド

別名 IX

機能 検索された結果の集合またはデータベース中のレコードの内容を、索引誌の形式に編集して出力する。

形式 INDEX KEY(「項目名」または「関係式」)または
KWIC(「項目名」または「関係式」)または
KWOC(「項目名」または「関係式」)
SET(「集合名」または*)またはALL
ELEMENT(「項目名」または*またはALLの並び)
SYSOUT または SYSOUT(「出力クラス」)または
DSNAME(「データセット名」)または DDNAME(「DD名」)
OVERLAY または ADD
LINE SIZE(「行サイズ」)
POINT(「文字サイズ」)
RECORD(「レコード順番号」 または

「レコード順番号」:「レコード順番号」

または それらの並び

標準値 SET(*) ELEMENT(*) OVERLAY LINESIZE(136) POINT(12)

注意 KEY または KWIC または KWOC のいずれかは、最初オペランドとして指定しなければならない。

オペランド KEY(「項目名」または「関係式」)

キーワード索引誌の作成を指定する。

「項目名」

指定された項目名のキーワード索引誌を出力する。

「関係式」

この関係式を満足するインデックス項目の索引誌を出力する。

この形式は、「項目名」「関係演算子」「文字式」である。

KWIC(「項目名」または「関係式」)

KWIC索引誌を作成する場合の文章形式項目の名前を指定する。

KWOC(「項目名」または「関係式」)

KWOC索引誌を作成するための文章形式項目の名前を指定する。

SET(「集合名」または *) または ALL

索引誌を出力すべき集合を指定する。

「集合名」 指定された集合の索引誌を作成する。

* 現集合の索引誌を作成する。

ALL データベースの全レコードの索引誌を作成する。

ELEMENT(「項目名」または * または ALL の並び)

キーワード索引誌に出力する項目を指定する。

「項目名」 出力する項目を指定する。

* 全ての標準出力項目が出力される。

ALL 全ての項目が出力される。

このオペランドは KEYオペランドを指定した時のみ指定できる。

SYSOUT または SYSOUT(「出力クラス」)

SYSOUTデータセットを指定する。出力クラスが省略された場合には、標準出力クラスのデータセットに出力される。

DSNAME(「データセット名」)

索引誌を出力するためにカタログされた利用者ファイルを指定する。

DDNAME(「DD名」)

索引誌を出力するために前もって割り当てられている利用者ファイルを

指定する。

OVERLAY

索引誌は、指定されたデータセットの先頭から格納される。これは、DSNAME または DDNAMEオペランドを指定した時のみ指定できる。

ADD

索引誌は、利用者ファイルの既に出力されたリストの後に追加して格納される。これは、DSNAME または DDNAMEオペランドを指定した時のみ指定できる。

LINESIZE(「行サイズ」)

印刷形式で出力する時、1行に印刷する文字数を55以上136以下の整数で指定する。

POINT(「文字サイズ」)

NLPに日本語データを出力する場合の文字の大きさを指定する。

RECORD(「レコード順番号」または「レコード順番号」:「レコード順番号」または それらの並び)

出力される検索誌の各レコードのうち、レコード順番号で指定したレコードだけを出力する。

3. 10 NOTコマンド

機能 現集合から指定した条件を満たすレコードを取り除いて、現集合とする。

形式 NOT 「論理式」

オペランド 「論理式」

「関係式」、「集合名」、あるいは、それらを「論理演算子」及びかっこで結んだもので検索条件を記述する。

「関係式」

ある項目が満たすべき条件を次の形式で指定する。

「項目名」 「関係演算子」 「文字式」

または

「項目名」 「関係演算子」 「文章検索式」

「項目名」

検索の対象とする項目またはキーワードインバーテッド項目の名前、もしくは別名を指定する。特にマスタファイル上で検索したいときは、項目名の後に .M をつける。

項目名が「論理演算子」または「関係演算子」と同じ綴りの場合は、引

用符で囲む。

「関係演算子」

項目値を「文字式」または「文章検索式」と比較したときに満たすべき関係を次のいずれかで指定する。

EQ(=) NE(≠) GT(>) GE(>=) LT(<) LE(<=)

HAS HASNT

「文字式」

項目値と比較する文字列を指定する。項目値の一部が任意であることを示すため @ を文字列の中に 1 個だけ、または文字列の前・後・前後に指定することができる。また、連続する ? を @ の代わりに用いると、任意部分の文字数が ? の個数と等しいものだけが対象となる。なお、文字列が「項目名」または「論理演算子」または「関係演算子」と同じ綴りのときは、文字列を引用符で囲む。

「論理演算子」

AND 論理積

OR 論理和

NOT 論理差

「文章検索式」

「文字式」を下記の「文章検索演算子」で結んだもの。

ADJ この前後の文字列が文章中で連続して現われる。

WITH この前後の文字列が一つの文の中に現われる。

SAME この前後の文字列が同一の項目中に現われる。

ADJ は、省略して、文字列を空白で区切って指定してもよい。

なお、文章検索式は、文章項目またはキーワードインバーテッド項目に対してのみ使用できる。

「集合名」

以前に保存した集合を検索条件の一部に利用したいとき指定する。

3. 11 OPTIONS コマンド

別名 OPT

機能 検索結果集合の取り扱いに関するオプションを切り換える。

形式 OPTIONS EMPTYSET または NOEMPTY

AUTOSAVE または NOAUTOSAVE

オペランド EMPTYSET

検索コマンドで該当件数が0件のとき、0件集合（空集合）をつくる。

NOEMPTYSET

検索コマンドで該当件数が0件のとき、集合（空集合）をつくらない。

AUTOSAVE

検索コマンドで、作成した集合を自動的に保存する。

NOAUTOSAVE

検索コマンドで、集合の自動的保存は行わない。

3. 1 2 ORコマンド

機能 選択されているデータベースから、指定した条件を満たすレコードを抽出して、現集合に追加する。

形式 OR 「論理式」

オペランド 「論理式」

「関係式」、「集合名」、あるいは、それらを「論理演算子」及びかっこで結んだもので検索条件を記述する。

「関係式」

ある項目が満たすべき条件を次の形式で指定する。

「項目名」 「関係演算子」 「文字式」

または

「項目名」 「関係演算子」 「文章検索式」

「項目名」

検索の対象とする項目またはキーワードインバーテッド項目の名前、もしくは別名を指定する。特にマスタファイル上で検索したいときは、項目名の後に .M をつける。

項目名が「論理演算子」または「関係演算子」と同じ綴りの場合は、引用符で囲む。

「関係演算子」

項目値を「文字式」または「文章検索式」と比較したときに満たすべき関係を次のいずれかで指定する。

EQ(=) NE(≠) GT(>) GE(>=) LT(<) LE(<=)

HAS HASNT

「文字式」

項目値と比較する文字列を指定する。項目値の一部が任意であることを示すため @を文字列の中に1個だけ、または文字列の前・後・前後に指

定することができる。また、連続する ? を @ の代わりに用いると、任意部分の文字数が ? の個数と等しいものだけが対象となる。なお、文字列が「項目名」または「論理演算子」または「関係演算子」と同じ綴りのときは、文字列を引用符で囲む。

「論理演算子」

AND 論理積

OR 論理和

NOT 論理差

「文章検索式」

「文字式」を下記の「文章検索演算子」で結んだもの。

ADJ この前後の文字列が文章中で連続して現われる。

WITH この前後の文字列が一つの文の中に現われる。

SAME この前後の文字列が同一の項目中に現われる。

ADJ は、省略して、文字列を空白で区切って指定してもよい。

なお、文章検索式は、文章項目またはキーワードインバーテッド項目に対してのみ使用できる。

「集合名」

以前に保存した集合を検索条件の一部に利用したいとき指定する。

3. 13 OUTPUTコマンド

別 名 OUT

機 能 検索結果の集合、または、選択したデータベースのすべてのレコードを編集して、端末などに出力する。

形 式 OUTPUT SET(「集合名」または *) または ALL
ELEMENT(「項目名」または * または ALL の並び)
EDIT または NOEDIT
SYSOUT または SYSOUT(「出力クラス名」) または
DSNAME(「データセット名」) または
DDNAME(「DD名」)
OVERLAY または ADD
PAGE
LINESIZE(「行サイズ」)
POINT(「文字サイズ」)
RECORD(「レコード順番号」 または

「レコード順番号」:「レコード順番号」

または それらの並び

SINGLE または MULTIPLE

標準値 SET(*) ELEMENT(*) EDIT OVERLAY LINESIZE(136) POINT(12) SINGLE

オペランド SET(「集合名」)

指定した集合の内容が出力される。特に、集合名として * を指定するか SETも ALLも指定しないと、現集合が出力される。

ALL

選択されているデータベースの全レコードが出力される。

ELEMENT(「項目名」または * または ALL の並び)

指定された項目の内容が出力される。* は、標準出力項目の並びを指定したものとみなされる。ALLは全項目を指定したものとみなされる。

EDIT

印刷形式で出力される。

NOEDIT

項目名と項目値を対にした可変長形式で出力する。

DATASET もしくは DDNAMEオペランドが必要。

SYSOUT または SYSOUT(「出力クラス名」)

システム出力装置に出力される。「出力クラス名」を省略すると、標準出力クラスに出力される。

DSNAME(「データセット名」)

指定したデータセットに出力される。このデータセットはカタログされていなければならない。

DDNAME(「DD名」)

このDD名で割り当てられているデータセットに出力される。

OVERLAY

データセットに出力するとき、先頭から書き込まれる。

これは DSNAMEオペランド または DDNAMEオペランドを指定した時のみ指定できる。

ADD

データセットに出力するとき、既存のデータの後に追加される。

これは DSNAMEオペランド または DDNAMEオペランドを指定した時のみ指定できる。

PAGE

データセットに出力するとき、レコードごとに改ページする。

LINESIZE(「行サイズ」)

印刷形式で出力する時、1行に印刷する文字数を55以上136以下の整数で指定する。

POINT(「文字サイズ」)

NLPに日本語データを出力する場合の文字の大きさを指定する。

RECORD(「レコード順番号」または「レコード順番号」:「レコード
順番号」または それらの並び)

指定された集合または全てのレコードのうち、レコード順番号で指定したレコードだけを出力する。

SINGLE

1画面に1レコード表示する。

MULTIPLE

1画面に複数レコード表示する。標題の一覧を見たい時などに使用する。

注意 SYSOUT, DSNNAME も DDNAME も指定しないと端末 (バッチなら SYSPRINT) に出力される。

3. 14 PFKコマンド

機能 PFキーを定義する。

形式 PFK PFnn(「コマンド文字列」)

LIST

オペランド PFnn(「コマンド文字列」)

PFキーの番号とコマンド文字列を指定する。

指定できるPFキーはPF13キーからPF24キーまでである。

LIST

PFキーに定義されたコマンド文字列を表示するときに指定する。

3. 15 QENDコマンド

別名 Q

機能 全ての集合及び全ての語番号を消去する。

形式 QEND

3. 16 SAVEコマンド

別名	SAV
機能	語番号、前または現集合、または 編集用一時カタログを保存する。
形式	SAVE TERM(「語番号」の並び) または SET(「集合名」) PREVIOUS または CATALOG(「カタログ名」)
注意	TERM SET CATALOG のいずれかが必要である。
オペランド	TERM(「語番号」の並び) 語番号の保存を指定する。指定された語番号は、「#」で始まる5文字以内の数字でなければならない。 SET(「集合名」) 集合を保存することを指定する。保存される集合に付けられる名前は「集合名」として指定されなければならない。 PREVIOUS 前集合を保存することを指定する。省略された場合には、現集合が保存される。 CATALOG(「カタログ名」) 編集用一時カタログを保存することを指定する。保存するカタログの名前として「カタログ名」を指定することができる。省略された場合には、EDITコマンドで使われた名前が採用される。さらに、カタログファイル中に既に同じ名前のカタログが存在する場合には、それは、編集用一時カタログの内容によって置き換えられる。

3. 17 SEARCHコマンド

別名	SEA
機能	選択されているデータベースから、指定した条件を満たすレコードを抽出して、現集合を作成する。
形式	SEARCH 「論理式」
オペランド	「論理式」 「関係式」、「集合名」、あるいは、それらを「論理演算子」及びかっこで結んだもので検索条件を記述する。 「関係式」 ある項目が満たすべき条件を次の形式で指定する。

「項目名」 「関係演算子」 「文字式」

または

「項目名」 「関係演算子」 「文章検索式」

「項目名」

検索の対象とする項目またはキーワードインバーテッド項目の名前、もしくは別名を指定する。特にマスタファイル上で検索したいときは、項目名の後に .M をつける。

項目名が「論理演算子」または「関係演算子」と同じ綴りの場合は、引用符で囲む。

「関係演算子」

項目値を「文字式」または「文章検索式」と比較したときに満たすべき関係を次のいずれかで指定する。

EQ(=) NE(≠) GT(>) GE(>=) LT(<) LE(<=)

HAS HASNT

「文字式」

項目値と比較する文字列を指定する。項目値の一部が任意であることを示すため @ を文字列の中に 1 個だけ、または文字列の前・後・前後に指定することができる。また、連続する ? を @ の代わりに用いると、任意部分の文字数が ? の個数と等しいものだけが対象となる。なお、文字列が「項目名」または「論理演算子」または「関係演算子」と同じ綴りのときは、文字列を引用符で囲む。

「論理演算子」

AND 論理積

OR 論理和

NOT 論理差

「文章検索式」

「文字式」を下記の「文章検索演算子」で結んだもの。

ADJ この前後の文字列が文章中で連続して現われる。

WITH この前後の文字列が一つの文の中に現われる。

SAME この前後の文字列が同一の項目中に現われる。

ADJ は、省略して、文字列を空白で区切って指定してもよい。

なお、文章検索式は、文章項目またはキーワードインバーテッド項目に対してのみ使用できる。

「集合名」

以前に保存した集合を検索条件の一部に利用したいとき指定する。

3. 18 SELECTコマンド

別名 SEL

機能 検索の対象とするデータベースとサブファイルを選択する。

形式 SELECT 「データベース名」
SUBFILE(「サブファイル名」の並び)
PASSWORD(「パスワードソース」
「セキュリティクラス名」
「パスワード」)

注意 「データベース名」は、必ず指定しなければならない。

オペラント 「データベース名」

検索の対象とするデータベースの名前を指定する。

SUBFILE(「サブファイル名」の並び)

検索の対象とするサブファイルの名前を最大12個まで指定する。省略
すると、参照可能なサブファイルが全部選択される。

PASSWORD(「パスワードソース」 「セキュリティクラス名」
「パスワード」)

パスワード保護されているデータベースを選択するとき、指定する。パ
スワードが必要なのに省略すると、システムが入力を促す。

3. 19 SHOWコマンド

別名 SHO

機能 データベースの定義情報、カタログの状態、その他の保存情報等を表示す
る。

形式1 SHOW DB または DB(「データベース名」) または DB(*)
LIST または LIST(COUNT HISTORY OWNER SUMMARY
EXPLANATION SUBFILE)

形式2 SHOW ELEMENT または ELEMENT(「項目名」) または
INDEX または OUTPUT または TEXT または NIHONGO
LIST または LIST(COMMENT HEADER ATTRIBUTE)

形式3 SHOW TERM または TERM(「語番号」) または
SET または SET(「集合名」) または

CATALOG または CATALOG(「カタログ名」)

オペランド DB または DB(「データベース名」) または DB(*)

DB のみを指定すると、参照可能なすべてのデータベースが表示される。
。

データベース名または * を指定すると、そのデータベースが表示される。

LIST または LIST(COUNT HISTORY OWNER SUMMARY EXPLANATION SUBFILE)

指定により次の内容が表示される。

COUNT : データベースまたはサブファイルのレコード件数
HISTORY : データベースまたはサブファイルの登録日時 及び
最終更新日時
OWNER : データベースの所有者名
SUMMARY : データベースまたはサブファイルの概容説明文
EXPLANATION : データベースまたはサブファイルの詳細説明文
SUBFILE : サブファイル

ELEMENT または ELEMENT(「項目名」)

「項目名」を省略すると、参照可能なすべての項目が表示される。「項目名」を指定すると、その項目のみが表示される。

INDEX

インデックスインバーテッドファイルを持つ項目が表示される。

OUTPUT

標準出力項目が表示される。

TEXT

文章属性項目が表示される。

NIHONGO

日本語項目が表示される。

LIST または LIST(COMMENT HEADER ATTRIBUTE)

指定により次の内容が表示される。

COMMENT : 項目の説明文
HEADER : 項目の見出し
ATTRIBUTE : 項目の属性

TERM または TERM(「語番号」)

「語番号」を省略すると、保存語番号の一覧が表示される。「語番号」を指定すると、その語番号に対応する索引語が表示される。この時、語

番号は保存してなくてもよい。

SET または SET(「集合名」)

「集合名」を省略すると、保存集合の一覧が表示される。「集合名」を指定すると、その集合の検索経過が表示される。

CATALOG または CATALOG(「カタログ名」)

「カタログ名」を省略すると、登録されているカタログの一覧が表示される。「カタログ名」を指定すると、そのカタログの内容が、表示される。特にカタログ名として * を指定すると、編集用一時カタログの内容が表示される。

3. 2 0 SORT コマンド

別名 SOR

機能 指定された項目名に従って検索された集合をソートする。ソートキーとして指定される項目名のは数は最大64までである。

形式 SORT SET(「集合名」または *)
 KEY(「項目名」の並び)

標準値 SET(*) KEY(「レコードキーの項目名」)

オペランド SET(「集合名」または *)

保存集合をソートする場合には、「集合名」を指定する。現集合をソートする場合には、* を指定する。

KEY(「項目名」の並び)

ソートキーとする項目名を指定する。ソートキーの順序は、項目名の指定順序となる。項目名の後に、Dが付加された場合には、その項目について降順になるように、何も付加されない場合は昇順になるように並べかえる。項目名のあとに、O、K、B、S が付加された場合はその項目について漢字SORTを行う。

3. 2 1 SYNONYM コマンド

別名 SYN

機能 同義語拡張検索のための各種情報を設定する。

形式 SYNONYM ON または OFF
 LIST または NOLIST
 DATASET(「同義語ファイル名」)

標準値 ON LIST

オペランド ON

同義語拡張検索を行う。

OFF

同義語拡張検索を行わない。

LIST

同義語拡張検索を行うとき、同義語を表示する。

NOLIST

同義語拡張検索を行うとき、同義語を表示しない。

DATASET(「同義語ファイル名」)

同義語ファイルを切り換える場合、その同義語ファイルのデータセット名を指定する。

第 4 章 付録・和雑誌データベースの定義

```

DBGEN
SELECT ZASSI
DATABASE UNIT('冊') SUMMARY('和雑誌データベース')
SUBFILE JAPANESE
        LEVEL(0)
        EXPLANATION(' JAPANESE MAGAZINES ')
        SUMMARY('和雑誌')
ATTRIB LETTER(KANA) PUBLIC
KEY BID ALIAS(ID) L(10) FIXED
ELEMENT TRS ALIAS(TR) L(1000) TEXT NIHONGO
ELEMENT TRR L(1000) TEXT
ELEMENT VLYR ALIAS(CHRS) L(1000) C V NIHONGO
ELEMENT TTLL ALIAS(CTGL) L(3) C FIXED
ELEMENT TXTL ALIAS(LG) L(3) C FIXED
ELEMENT GMD L(1) C FIXED
ELEMENT ISSN L(8) C FIXED
ELEMENT YEAR1 ALIAS(PBLYR1) L(4) C FIXED AD(R)
ELEMENT YEAR2 ALIAS(PBLYR2) L(4) C FIXED AD(R)
ELEMENT PUB ALIAS(PLC) L(400) C V NIHONGO
ELEMENT CNTRY ALIAS(CTR) L(10) C V
ELEMENT BHNT OCC(30) ALIAS(TRNTYP) L(1000) C V NIHONGO
ELEMENT NOTE OCC(10) ALIAS(NT) L(200) C V NIHONGO
ELEMENT LNAME OCC(10) ALIAS(ABLBN) L(200) C V NIHONGO
ELEMENT VTG OCC(10) ALIAS(OT) L(400) C V NIHONGO
ELEMENT HLV OCC(10) L(400) C V
ELEMENT HLYR OCC(10) L(100) C V
ELEMENT CONT OCC(10) ALIAS(INTIND) L(1) C FIXED
APPENDIX BID HEADER('書誌番号')
APPENDIX TRS HEADER('標題')
APPENDIX TRR HEADER('標題の読み') NOOUTPUT

```

APPENDIX VLYR HEADER('卷次年月次')
 APPENDIX VTG HEADER('異誌名')
 APPENDIX TTLL HEADER('標題言語') NOOUTPUT
 APPENDIX TXTL HEADER('記述言語')
 APPENDIX GMD HEADER('資料種別')
 APPENDIX ISSN HEADER('I S S N')
 APPENDIX YEAR1 HEADER('出版開始年')
 APPENDIX YEAR2 HEADER('出版終了年')
 APPENDIX PUB HEADER('出版地')
 APPENDIX CNTRY HEADER('出版国') NOOUTPUT
 APPENDIX BHNT HEADER('変遷')
 APPENDIX NOTE HEADER('注記')
 APPENDIX LNAME HEADER('所蔵館')
 APPENDIX HLV HEADER('所蔵巻号')
 APPENDIX HLYR HEADER('所蔵年')
 APPENDIX CONT HEADER('継続')
 KW KW ALIAS(TI)
 NKW NKW ALIAS(NTI)
 INDEX TTLL
 INDEX ISSN
 INDEX YEAR1
 INDEX YEAR2
 INDEX PUB
 INDEX CNTRY
 INDEX BHNT
 INDEX NOTE
 INDEX LNAME
 INDEX CONT
 STOPWORD WORD(IN AT THE OF A AN FOR FROM WITH ON)
 MAP
 INPUT DDNAME(MYDATA)
 INVERT
 END

謝 辞

本稿の執筆にあたって以下の方々の御協力がありました。

全体の構成については附属図書館・学術調査係の本郷清次郎氏、また、FAIRSおよびILISの取り扱い等技術的な事柄については富士通西支社・システム統轄部の塔下龍馬氏と富士通システム本部・文教システム部の佐橋秀夫氏のお世話になりました。

—昭和61年6月 鶴岡—

参考文献

- (1) 「琉球大学附属図書館概要」
- (2) 「UTOPIA利用の手引」, 筑波大学学術情報処理センター
- (3) 「東京大学文献情報センター要覧」
- (4) 「大学図書館業務の電算化」, 文部省学術国際局情報図書館課
- (5) 「学術情報センターの概要」, 文部省学術情報センター
- (6) 「FAIRS-I解説書」, 富士通
- (7) 「FAIRS-I使用手引書データベース管理編」, 富士通
- (8) 「FAIRS-I使用手引書検索編」, 富士通
- (9) 「NINET-G使用手引書(利用者編)」, 富士通
- (10) 「TSS/Eコマンド文法書」, 富士通

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第19巻 第3号〔通巻第72号〕特別号

昭和61年6月20日 発行

発行 琉球大学附属図書館 沖縄県西原町千原1番地

電話 (09889) 5-2221 内線 (2143) 編集 びぶりお編集委員会